

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070200854
法人名	医療法人若愛会
事業所名	グループホームけやきの杜 1階ユニット
所在地	福岡県北九州市若松区西小石町17-27
自己評価作成日	令和3年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	令和3年11月26日	評価結果確定日	令和3年12月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各階担当により、それぞれの利用者について対応を検討しているが、他の階担当の職員からも意見を聴取して利用者の日々の状態の変化や言動に注意し、困難なことや不安や悩みなどを早急に見つけ、備品購入や支援について職員全体で多角的に話し合っている。利用者の変化や対応の変更などは電子カルテに記載し、職員全体で情報を共有し、対応に遅れないようにしている。また、家族にもその都度連絡し、現在の状況を伝えている。利用者が安全でよりよい生活が送れるよう努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で様々な制限があるなかで、工夫をしながら外出、イベント開催、面会の支援などに取り組んでいる。電子カルテで利用者について全職員が情報共有しており、家族へは月1回の写真も含めた手紙での報告や、何かあった際にはその都度報告し、情報共有に努めている。コロナ禍前に家族から、イベントで利用者と過ごすだけでなく、事業所の手伝いをしたいとの要望があり、手伝いをお願いしたところ、「また呼んでください」と好評で、良好な関係ができています。理念を念頭に、利用者が心穏やかに楽しく過ごせるよう利用者へ寄り添った支援に努め、管理者、職員同士でもお互いに思いやって協力しながら業務に取り組み、職員は「大変だけどやりがいを感じられ、これからは頑張っていきたい」と口にする事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に付くところに理念を掲示している。また、委員会でリネンの確認を行う機会を設けている。理念に基づきサービスの計画を立て、電子カルテ等を使用し共有、実施を行っている。	開設当初に職員全員で協議して決めた理念であり、目につきやすい場所に掲示して常に理念に基づいた支援につなげている。職員の都合ではなく、利用者のペースに合わせた支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症対策により、外部からの訪問を制限している。ボランティアの訪問もない。	コロナ禍によって最近では外部との交流ができていないが、以前は地域の夏祭りや敬老会、運動会などに参加したり、職場体験学習や園児訪問を受け入れたり、事業所主体で落語会を開催するなど、地域との交流を図っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症対策により、文書にて介護教室や運営推進会議で認知症についての理解や支援の方法をお知らせしている。広報誌やホームページでも情報を乗せている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症対策により、文書にて入居者の状況やサービス実施の状況を報告している。事故やヒヤリハットについても報告を行い、意見を頂いている。	コロナ禍の間は2か月に1回書面で開催している。民生委員、自治会長、利用者家族、認知症支援・介護予防センター職員に意見照会表にて書面報告内容に対する意見をいただき、サービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広報誌を配布し活動状況やサービスの実施状況を伝えながら連絡や協力をお願いしている。	事業所の現状を、良い点、悪い点のどちらも報告することで具体的なアドバイスをもらっている。また、事業所の運営について不明な点がある際は、その都度相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束廃止について会議を行い、身体拘束についての理解や廃止に努めている。	年2回の施設内研修で学ぶ機会を設け、毎月の身体拘束廃止・リスクマネジメント委員会で該当事例がないか検討している。利用者の状態、ヒヤリハット報告書を見直し、心理的な拘束も、身体拘束もないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し高齢者虐待について学ぶ機会を設けている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修会を開催し、成年後見制度などについて学ぶ機会を設けている。	年1回の施設内研修で学ぶ機会を設けている。対応できる職員が事前の状況確認などをして、パンフレットに沿って内容の説明や案内を行っている。また、将来的に制度活用が見込まれる場合、こまめに情報提供して利用者や家族が急に困ることがないように配慮している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、その都度重要事項について説明をし、理解して頂けるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への連絡の際に、意見などはないか確認している。また、ご家族とカンファを行い、意見を聴取するようにしている。	電話連絡やカンファレンス、意見箱、苦情報告、行事など様々な機会で見聞や要望を伺っている。家族参加の行事についての要望があった際は、可能な限り対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や主任会議などで、職員から意見を聞くようしている。	定期的に主任・副主任が困っていることがないか確認している。また、定例会や年2回の面談などで意見を聞く機会を設けている。施設設備や備品、職員配置について意見があった際は、その都度対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が記入した自己評価シートを基に面談を行っている。面談の際に、意見を聴取する機会を設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。幅広い年齢層の職員が働いている。各個人の様子を見ながら業務の範囲を決定している。	20～70代の男女の職員が働いている。パソコン操作といった得意な分野があれば、それに関する業務をまかせ、個人の能力を活かせるように業務分担している。また、年齢や体力に応じて業務内容を調整し、無理なく働ける環境づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会や会議の際に、人権について勉強する機会を設けている。入居者に対する態度などについて振り返る機会を設けている。	事業所内や法人内での勉強会、外部の研修で学んでいる。また、委員会など職員の集まる機会に普段の利用者への態度や接し方について振り返り、具体例を挙げながら不適切な行為について見直している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において、外部からの講師を依頼するなどして、研修会を行い職員が勉強する機会を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別法人と交流する機会を設け、情報交換をする環境づくりに努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始時は、本人や家族に聞き取りを行っている。その後も日常的にかかわりを持ち、信頼関係を築くように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時までにご家族に生活歴を伺い、情報収集し生活に反映させている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況から、今何が必要なのかを考え、同一グループと連携を取りながら対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の生活歴、能力を考慮し、出来ることはして頂いている。よく話を聞き、して欲しいことなどを聞きながら関係を築くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意向を確認し、意向に沿った対応が出来るように努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症により、面会制限はあるが、近隣のご家族には面会を再開した場合は連絡し、面会できる機会を設けている。また、LINEを利用してオンラインでの面会をして頂いている。	家族や親戚、自宅近所の方との面会、自宅や行きつけの美容室などへの外出など、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援しているが、現在は制限があるため、オンラインを活用して面会ができるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や相性を考慮し、利用者同士が関わりを持てるように対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご家族とお会いする機会がある時は、様子を聞くなどし、関わりを持つように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意向を確認している。また、自分で言えない方はご家族に移行を確認している。	定期的に思いや意向について直接話す機会を設けているが、普段の会話や表情、行動からも思いの把握に努めている。また、過去の生活歴や家族の意見も参考にし、利用者ができるだけ穏やかに安心して過ごせるように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に生活歴の記入をお願いしたり、担当のケアマネジャーに確認するなどしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月モニタリングを行い、サービス状況について評価している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者と意見交換を行っている。また、担当階で問題点や対応策などの話し合いを行っている。	介護計画作成担当者と各利用者担当職員が中心となって職員や家族と話し、計画を作成、更新している。家族には月1回の現状の報告の他、計画変更や対応変更、状態変化があった際にその都度連絡している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテを利用して、情報の共有を行い、対応の変更点もあげ、介護計画にも反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてサービス内容の再検討を行い、変更している。職員からも意見を聞き対応を決めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイサービスを利用していた方も入居されており、顔見知りの利用者もいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回かかりつけ医の訪問診療がある。緊急時の搬送先は予め確認している。受診をする場合はご家族に連絡している。	本人、家族の希望のかかりつけ医を受診しているが、協力医療機関をかかりつけ医としている利用者が多い。緊急時の搬送先や今後の意向については家族や本人にあらかじめ確認している。入院時の状態確認は、定期的な連絡と、面会で直接行い、医療機関、家族との連携に努めている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いたことは、看護師に報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院のソーシャルワーカーや家族と連絡をとり、早期に退院できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、ご家族や主治医と相談し、支援できる体制をとっている。	入居時に終末期についての意向確認を行っているが、利用者の状態変化時などにも再確認している。また、予測される今後について、早い段階から家族と話し、キーパーソンだけでなく親族間でも話していただくよう説明している。チームで支援に取り組み、意向に沿った終末期になるよう努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開催し、緊急時の対応について学ぶ機会を設けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。職員の少ない夜間帯を想定して行っている。	年に2回、夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。地震や風水害については防災マニュアルを作成し、すぐに閲覧できる場所に置いて、備蓄食料や非常照明、災害時の連絡体制を確認している。自治会と災害時の連絡方法や避難誘導などの協力体制を築いている。	最近はこれまでにない様々な災害が起こる可能性があり、いろいろな状況を想定してのシミュレーションが重要となってくる。避難訓練の際に職員の戸惑う様子が見られていることもあり、どんな時でもできるだけ落ち着いて安全に避難できるようになることに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で気を付け、注意している。勉強会で振り返る機会を設けている。	利用者の私物を扱ったり、居室に入る際は本人に声掛けをし、普段の言葉遣いや態度は失礼がないか職員同士で確認し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない支援に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思決定できるように、利用者に合わせて問いかけなどを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の予定は決まっているが、本人の様子や状態に応じて対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせておしゃれが出来るようにしている。お化粧を希望される方には準備をしてお化粧をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手なものがあれば、別メニューへの変更をして対応している。	食事やおやつを利用者の能力に合わせて一緒に作る行事を月1回以上実施している。食事の際は気の合う方同士で同席してもらい、食事が楽しみなものとなるようにしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談しながらエネルギー量の調整をしている。水分は1日を通して確認し、水分がすすまない方には、こまめに進めたり、本人が好むものを提供して水分量の確保を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師より、助言を受けながら対応している。必要に応じて歯ブラシを変更したり、スポンジブラシを準備している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、それぞれに応じた声掛けを行っている。	誘導や声掛け時間などを定期的に見直し、その都度改善案を実施して排泄の自立にむけた支援を行っている。また、できるだけ同性による介助をしたり、声掛けの音量に気をつけたり、さりげない介助を行うことで羞恥心や不安へ配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取を勧めたり、起床時に白湯を勧めて便秘予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望や気の合う方との入浴して頂くなどして、楽しんで頂けるよう対応している。	基本的な入浴日は決めてあるが、要望があれば希望に沿っている。季節ごとのイベント浴や、気の合う方との入浴で楽しく入浴できるように支援している。拒否があれば、時間をずらしたり、別の職員が声をかけたりしているが、それでも難しい場合はシャワー浴や清拭で対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの状況に応じて日中にも臥床時間を設けるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬方法などは確認を行い対応している。飲み込みの悪い方などは、形状など医師と相談し工夫している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をもとに、家事手伝いや塗り絵など好む活動を促している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症対策の為、外出機会が減っているが、車内から見学して頂くなど、なるべく楽しんで頂けるよう努めている。	コロナ禍で外出が難しい状況であるため、外食や買い物などの要望があった際は、気分転換にテラスで食事をしたり、職員が代わりに買い物をしたり、外出したとしても感染症対策を徹底した上で車から降りずに車内で過ごしていただくといった対応をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失の可能性があるが、希望される場合は、ご家族と相談のうえ持っていたくなど対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話などを活用し、ご家族と話をする機会を設けている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光カーテンを設置するなど、不快感を感じないよう配慮している。居室やフロアに温湿度計を設置し、温度調節を行っている。	行事予定の掲示やカレンダー、事業所で作った季節の飾り物を置き、季節感や生活感を感じられるようにしている。また、利用者の好みに合わせて静かな空間、テレビや音楽の流れる空間を作っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性を考慮して座席配置を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や家族の写真などを飾るなどして頂いている。	自宅で使用していた家具や家電、好きなものなどを置き、本人や家族の写真を飾っている。希望があれば、家族に連絡して持ってきてもらい、利用者の過ごしやすい居室となるようにしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントを行い、出来る事やわかることを把握している。環境整備をしてなるべくできることはして頂いている。		